

## 民主党小沢幹事長との面談および陳情の報告

2月26日に川内博史衆議院議員（国土交通委員長）の司会にて、小沢幹事長と面談を行いました。都臨技から役員として、長島会長、藤浪副会長、福田副会長、伊藤理事、八木理事、が小沼連盟会長とともに参加致しました。

冒頭、当会小崎繁昭会長が医療技術者団体を代表して挨拶を行い、各団体（他6団体）からの要望事項を陳情しました。

日臨技からは

①データ標準化に関わる要望事項

②平成17年に行われた法改正以降の積み残し事項（生理検査業務）の再検討（血圧の測定を含む）

③検査のために必要な比較的軽微な侵襲の検体採取

小沢幹事長は検査の詳細については存じるところではありませんが、ご自身も定期検診などで検査を受けているので、その数値の標準化が成されていないことに驚くと共に、日臨技が苦慮されていることについては興味を抱かれたようです。

要望事項説明の後、小沢幹事長より

「以後の問題については、厚生労働省とキチンと話ができるよう党を上げて応援することを約束する。今後は川内博史議員を中心に調整し、抵抗があっても押し切らないといけないときは、自分が出る。力を合わせて医療を向上させていこう。」との発言がありました。また、報道は会議の前撮りと終了後、記者会見を行いました。

### 小沢幹事長との面談に至る経緯について

日本臨床検査技師連盟の会議で、小沼利光日本臨床検査技師連盟会長が、この一年間の現状と活動概要について報告しました。内容の骨子を下記に掲げます。

報告の中で、特に今年度は、昨年9月に、政権交代という政治の大きな変革が起こり、政権与党が自民党・公明党から民主党・社民党・国民新党に移り、当連盟としても、政権与党になった民主党へのパイプ作りを早急に行う必要性が生じ、大きな転換を余儀なくされました。

この時代のうねりは、我が団体に限らず、医療関連団体全てに共通する事であり、昨年10月以降、民主党が団体の要望・陳情に対し、

①直接、民主党個々の議員から、政務三役や官僚への陳情・要望を提出する事を禁止し、民主党の窓口を幹事長室へ一本化する。

②民主党以外の政党との、超党派の議員連盟を原則廃止し、議員連盟を整理する。

③民主党としての団体への対応は、来たる7月の参議院選挙への協力要請に応じていただいた団体を優先する。

以上の三原則を提示。以来、各医療関連団体も、政党支援に対する方針転換を急ピッチ

で進めざるを得なくなりました。

例えば、(社)日本歯科医師会は、自民党から会選出の候補者を参議院選挙に立候補させる事を断念し、民主党から立候補を模索中です。(社)日本看護協会や(社)日本医師会においても、方針転換の議論が活発に行われていることは周知の通りです。

また、(社)日本栄養士会は、昨年の早い段階で、政治連盟の会長を変え、自民党と決別、民主党支持を鮮明にし、民主党から独自の現職の参議院候補者を擁立するなど、職能の法的整備のために全力を傾けています。

このような背景を踏まえ、会員の方々の中には、超党派対応を念頭に、全ての政党と等距離にお付き合いをするのが良いのではという議論もありましたが、民主党の三原則の方針を踏まえ、また、民主党が衆議院議員の数で過半数以上を有している政治状況から、4年間は民主党が政権与党であることに変わりはありません。つまりは民意の反映結果であることは否めません。

以上を鑑みると、当連盟としても、民主党支持を鮮明にすべきという結論に至りました。

一方、(社)日本臨床衛生検査技師会では、医療技術者の他団体と一緒にスクラムを組んで民主党への強固なパイプ作りを目指し、医療技術者の地位向上並びに法整備のために団結を念頭にお互いに呼びかけあいを行い、当会を含む7団体(日本放射線技師会、日本臨床工学技士会、日本視能訓練士協会、日本作業療法士協会、日本歯科技工士会、日本歯科衛生士会)が呼応したところです。

以上が経緯です。詳細は、[日本臨床検査技師連盟のHP](#)を参照して下さい。